

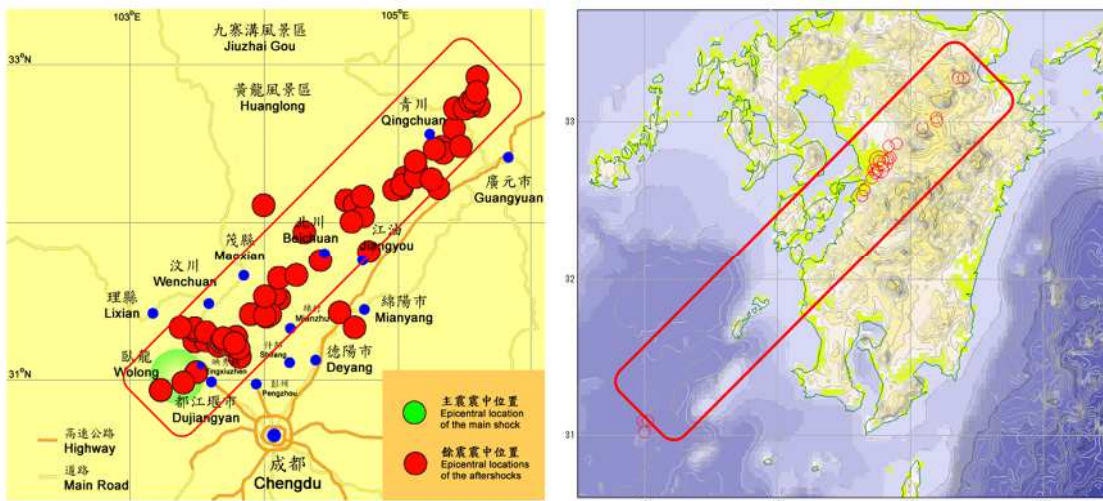


中国・四川地震から10年

2008年5月12日、中国四川省を中心とする地域でマグニチュード8クラスの地震が発生しました。公式には死者69,226名、負傷者37万人以上、GDPのロスが8,450億RMBとされており、日本円に換算すると約14兆円となります（政府発表の数値）。

5月12日から四川省の成都では、この地震から丁度10年という事で、記念シンポジウムが開催されており、DuMA/CSOもこの国際会議に参加しております。

東北地方沖に代表されるいわゆるプレート沈み込み帯で発生する地震ではマグニチュード8クラスはかなりの頻度で発生しますが、このような内陸直下型の地震でマグニチュード8というのは、最大クラスの地震で、日本では過去に1891年の濃尾地震があるだけです。



上の図は、四川地震の震源域の広がりを示すものです。左右の図は同じ広さの領域を示しています。右側の日本での赤丸は2016年の熊本地震とマグニチュード5を越える余震を表したものです。斜めに描かれている領域が四川地震の余震域です。日本で考えますと、いわば九州を完全に縦断する領域が破壊したのです。この余震域の広がりだけでも、極めて深刻な地震であった事がわかります。



この地震では左の写真のような崩壊が多発。このような状況下では、2次被害発生の可能性が高く、救出活動は困難を極めた。





地震予知は科学としては死者を減らすための究極の防災かもしれませんが、もっと重要なのは建物の耐震性の確保です。地震を予知しても地震発生を防ぐ事はできませんので。

日本列島陸域の地下天気図®

3月26日のニュースレターに引き続き、5月8日時点の日本列島陸域の地下天気図解析です。

今回は、Mタイプを示しますが、言葉でまとめますと、

- ・宮城県から岩手県南部にかけての沖合の異常は、LタイプもMタイプも続いており、地震発生の可能性は現時点では高くないと考えています。
- ・新潟県の小さな異常はLタイプでは見る事ができず、重要視しておりません。
- ・近畿地方に広がる異常は同様な異常が観測されており、こちらは本物の異常と考えておりますが、異常が継続中なので、まだ対応する地震発生の可能性は小さいと考えています。
- ・福岡県北部の異常は、Lタイプでも観測されており、今後の推移に注目しています。

